

NEC関西 環境アニュアルレポート (2003年度版)



琵琶湖のヨシ群落



能登川水車



石山寺



瀬田の唐橋



目次

ごあいさつ	1
NEC関西の概要	2
環境方針	3
環境管理に係わる認証・認定	5
環境管理組織	6
2002年度の環境管理活動結果	7
・2002年度の主な取組み実績	
・環境会計	
・環境測定結果	
・環境パフォーマンス	
・地域社会とのかかわり	
2003年度の主な環境目的・目標	28
化学物質管理	29
滋賀県条例に基づく大気環境負荷低減計画書	32
土壌・地下水問題への対応状況	33
環境管理に係わる外部表彰	34
その他	35

ごあいさつ

NEC関西は、NEC半導体の生産基地の位置付けにあり、「顧客指向」「人間尊重」「技術重視」を経営理念として事業活動を展開いたしております。この経営理念を環境管理面から具現化するために環境経営の実践をベースとして環境に配慮した活動を進めています。

この環境管理活動を系統的に進めていくために国際規格に基づく環境マネジメントシステムを構築し、1996年3月に県内で2番目となるISO14001認証を取得することができました。

また、地域と一体となった環境管理活動を地元の大津市にも認めていただき、1999年9月以来「環境管理実施事業所」としての認定を継続していただいています。

21世紀は、「環境」の世紀と言われております。この世紀に企業が持続可能な発展をしていくためには、現在よりも一層高いレベルの環境管理活動が要請されるものと考えています。例えば環境に配慮した技術・製品開発、生産技術の革新、マネジメントの強化などに果敢にチャレンジしていくことだと思います。また、環境投資に対しても省エネ設備の積極的な導入など前向きに対応していきます。現在このような環境コンセプトに基づき、次のような環境管理活動を進めています。

地球温暖化防止のための省エネルギー活動の展開

循環型社会構築のためのグリーン調達や廃棄物の削減

良き企業市民としての活動

当社における生産革新活動は、日常の「ムリ」「ムダ」「ムラ」の排除や技術改善を行い、そのことが源流での化学物質削減や廃棄物削減などの環境管理活動にも直結しています。このように、環境管理活動が事業活動の一つに組み込まれることが、環境管理活動をより一層加速させていくものと考えています。

この環境アニュアルレポートには、2002年度における当社の環境活動に対する取り組み方針や活動状況について掲載いたしております。

当社の環境管理に対する考え方や取り組みについて一人でも多くの方にご理解いただくと共に忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。



2003年6月

関西日本電気株式会社

社長

S. Kishi

NEC関西の概要

会社名: 関西日本電気株式会社

設立年月日: 1983年7月1日 新日本電気株式会社より電子デバイス事業を分離、独立
(創業1943年 日本電気株式会社大津製造所)

資本金: 10億円

本社所在地: 〒520 - 8555 滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号
TEL 077 - 537 - 7500

従業員数: 2568名 (2003年1月末現在)

社長: 貴志 禎之

生産品目: 各種半導体
(超LSI, パワーデバイス, ダイオード, 化合物半導体)
電子コンポーネント製品
(コックピット用ブラウン管, 磁気ヘッド)

大津工場: 〒520 - 8555 滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号
TEL 077 - 537 - 7500

彦根工場: 〒522 - 0223 滋賀県彦根市川瀬馬場町750番地の3
TEL 0749 - 28 - 1152(代)

関連会社: 福井日本電気㈱
〒919 - 0402 福井県坂井郡春江町大牧東島1番地
TEL 0776 - 72 - 2611 (代)

: 日本電子ライト㈱
〒518 - 0002 三重県上野市千歳138番地
TEL 0595 - 23 - 3251 (代)

: ㈱近畿分析センター
〒520 - 0833 滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号
TEL 077 - 534 - 0651 (代)

環境方針（環境理念+行動指針で構成）

環境理念

自然のいとなみを尊重した環境管理活動を展開し、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

行動指針

- 1．環境に与える影響を考慮した企業活動、製品又はサービスの全領域において環境負荷を最小限にするために省資源・省エネルギー・廃棄物削減・環境リスク対策などの環境パフォーマンスを推進する。
- 2．環境マネジメントシステムに基づき環境保全活動を展開し、継続的改善の実施と汚染の予防を図る。
- 3．環境に関する法令及び同意したその他要求事項を遵守することはもとより、自主管理基準値を設定し、環境管理レベルの向上に努める。
- 4．環境目的、目標の設定及びそれを達成するためのプログラムを環境管理活動計画の中で明確にし、その計画に基づく実行と定期的な見直しを行う。
- 5．環境方針を文書化し、全従業員に周知徹底するとともに環境教育を計画的に実施し、意識向上を図り全社一丸となって環境管理活動を展開する。
- 6．環境方針の積極的な公開と開発した環境技術・管理手法を活用して社会に貢献する。
- 7．琵琶湖の近隣に立地していることを認識し、自然環境に充分配慮するとともに地域と一体となった環境向上活動を展開する。

環境グリーンカード

環境方針内容を社内に周知徹底するために環境グリーンカードを作成し、全従業員に配付しています。

- ・全従業員は、環境グリーンカードを携帯しています。
- ・従業員各自は、環境グリーンカードに実践を心がける環境に配慮した行動を記載しています。
- ・トップマネジメントは、従業員各自の環境グリーンカード記載内容を確認しています。

NEC

NEC関西の環境方針

(環境理念 + 7つの行動指針)

環境理念

自然のいとなみを尊重した
環境管理活動を展開し、
環境に配慮した事業活動と
地球環境保全の両立を目指します

環境方針に基づく「私の環境に配慮した行動」

所属

氏名

--

行動指針

1. 環境に与える影響
2. 環境マネジメント
3. 環境に関する法令
4. 環境目的、目標の設定
5. 環境方針を文書化し、
6. 環境方針の積極的な公開と
7. 琵琶湖の近隣に



発行日 2002年6月19日(第5版)

関西日本電気株式会社

JQA-E-70003

環境管理に係わる認証・認定

環境マネジメントシステムに係わる国際規格であるISO14001認証を国内半導体製造事業所において最初である1996年3月8日に取得しました。



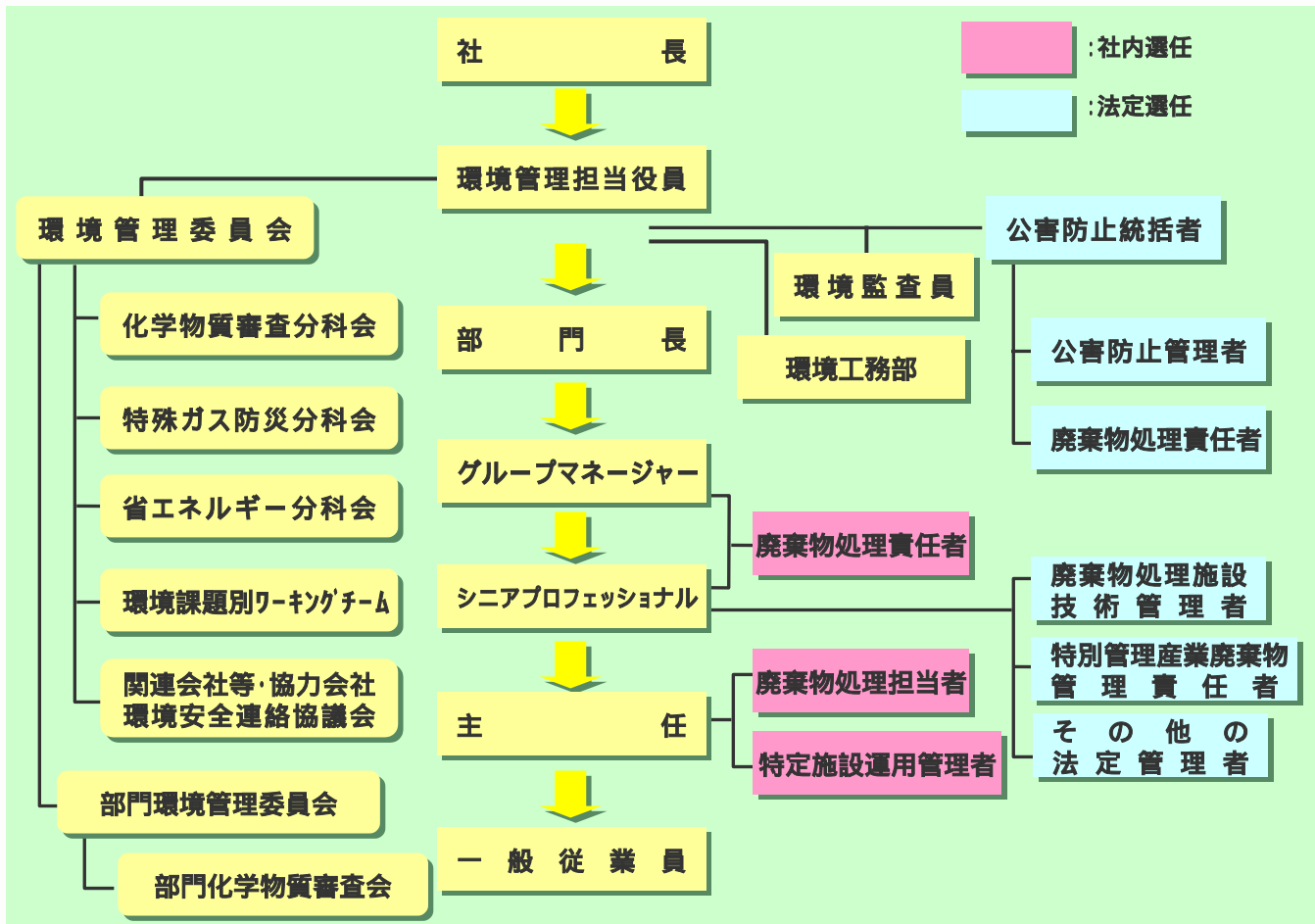
自主的な環境管理活動が認められて1999年9月に大津市から「環境管理実施事業所」として認定されました。継続認定として2002年4月に更新されました。



環境管理組織

環境管理活動をスムーズに展開するための環境管理組織は、以下の通りです。

- ・環境方針等の全社展開機関として環境管理担当役員を委員長とする環境管理委員会を設置しています。
- ・環境関係の課題別の解決機関として分科会、各種ワーキングチームを設置しています。
- ・環境関係の法定管理者として公害防止統括者、公害防止管理者等を設置しています。
- ・環境関係の社内管理者として廃棄物処理責任者、廃棄物処理担当者等を選任しています。



2002年度の環境管理活動結果

2002年度の主な取組み実績

2002年度環境目標	実 績	評価
エネルギー炭酸ガス排出量原単位を 1990年度対比9%増加に押さえる。	30%増加 (半導体市況の低迷による減産影響 でエネルギー原単位が上昇)	
生産部材のグリーン購入を推進 するために実態調査を実施する。	実 施	
資源有効利用として法規制化学物質 の使用量を1999年度レベルで維持 する。	レベルを維持	
産業廃棄物総排出量を2001年度 レベルで維持する。	10%増加	
一般廃棄物総排出量を2001年度 レベルで維持する。	8%増加	
外部に影響する環境異常ゼロ。	環境異常ゼロ	

達成度評価 : 100%以上 : 80%以上100%未満
 x : 80%未満

環境会計（2002年度実績）

環境経営を進めるうえで、環境対策にかかわる費用と、その効果を把握する環境会計は重要であり、当社では、2000年度から環境報告書に掲載しています。

ここでは、実質的な経済効果を掲げ、環境対応が寄与したとみなされる修復の回避益等については割愛しています。

2002年度の実績を2001年度と比較すると、「リサイクル・省エネ効果益と原材料・廃棄物処理コスト削減益」の改善（約1.5倍増）が特徴として挙げられ、重点的に取り組んだ費用削減の施策が、環境の負荷低減に結びついた結果と言えます。

環境会計集計結果

(単位:百万円)

環境費用	緑化費用・人件費・委員会費	1 2 1
	環境施設償却費・課金・許認可費	7 8
	省エネ施策費用	2
	リサイクル施策費用	3
	廃棄物対策費用	1 9
	人材育成費	5
	環境リスク対策費用	5 8 3
	内部監査費	2
	合 計	8 1 3
経済効果	リサイクル・省エネ効果益	1 4 4
	原材料・廃棄物処理コスト削減益	9 4
	用水削減益	2 8
	合 計	2 6 6

環境測定結果

国や地方自治体の定める規制値より、更に厳しい自主管理基準値を設定し、管理しています。その管理状況を定期的に監視するために環境関係測定を実施しています。

水質関係測定結果

2002年度測定結果の平均値

測定項目	国基準値	上乘せ基準値	自主基準値	平均測定値	測定結果	MAX
カドミウム	0.1	0.01	< 0.001	< 0.001	○	< 0.001
シアン	1	0.1	< 0.01	< 0.01	○	< 0.01
鉛	0.1	0.1	< 0.01	< 0.01	○	< 0.01
六価クロム	0.5	0.05	0.02	< 0.01	○	< 0.01
砒素	0.1	0.05	0.01	< 0.005	○	< 0.005
水銀	0.005	0.005	0.001	< 0.0005	○	< 0.0005
PH	5.8-8.6	6.0-8.5	6.5-8.0	7.4	○	7.5
BOD	160	20	4.7	1.2	○	3.2
COD	160	20	5.9	4.1	○	5.5
SS	200	70	4.1	1.4	○	1.6
n - hex	5	5	1	< 0.5	○	< 0.5
フッ素	8	8	2.2	2		3
総窒素	120	8	5	1.5	○	3.6
総リン	16	0.8	0.2	0.07	○	0.14
大腸菌群数	3000	3000	37	1	○	11
銅	3	1	0.1	< 0.05	○	< 0.05
亜鉛	5	1	0.5	0.07	○	0.28

単位はPHを除き mg/l、大腸菌群数:個/cm³

注: ○は測定結果が自主基準値内であることを示す

pH:水素イオン濃度 SS:水中の汚濁物質濃度 BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量

大気測定結果

2002年度測定結果の平均値

大津工場測定施設	測定項目	単位	国の基準値	自主基準値	平均測定値	測定結果	MAX
ボイラー	ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.09	0.02	○	0.06
	窒素酸化物	ppm	180	130	110	○	130
	硫黄酸化物(K値)	-	8.76	1	0.19	○	0.30
ボイラー	ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.09	0.02	○	0.07
	窒素酸化物	ppm	180	130	71	○	92
	硫黄酸化物(K値)	-	8.76	1	0.20	○	0.24
ボイラー	ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.09	0.03	○	0.04
	窒素酸化物	ppm	180	130	79	○	91
	硫黄酸化物(K値)	-	8.76	1	0.15	○	0.42
ボイラー	ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.09	0.02	○	0.05
	窒素酸化物	ppm	180	130	107	○	130
	硫黄酸化物(K値)	-	8.76	1	0.18	○	0.27
ボイラー	ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.09	0.04	○	0.06
	窒素酸化物	ppm	180	130	76	○	93
	硫黄酸化物(K値)	-	8.76	1	0.16	○	0.24

注： 印は測定結果が自主基準値内であることを示す

騒音・振動測定結果

2002年度測定結果の平均値

測定	測定時刻	単位	国の基準値	自主基準値	平均測定値	測定結果	MAX
騒音	6:00~8:00	dB	65	60	54	○	56
	8:00~18:00	dB	70	65	54	○	56
	18:00~22:00	dB	70	65	54	○	57
	22:00~翌6:00	dB	60	55	52	○	55
振動	8:00~20:00	dB	65	60	31	○	35
	20:00~翌8:00	dB	60	55	31	○	35

注： 印は測定結果が自主基準値内であることを示す

分析測定：株式会社近畿分析センター

URL <http://www.kbc-em.co.jp>

環境パフォーマンス 1

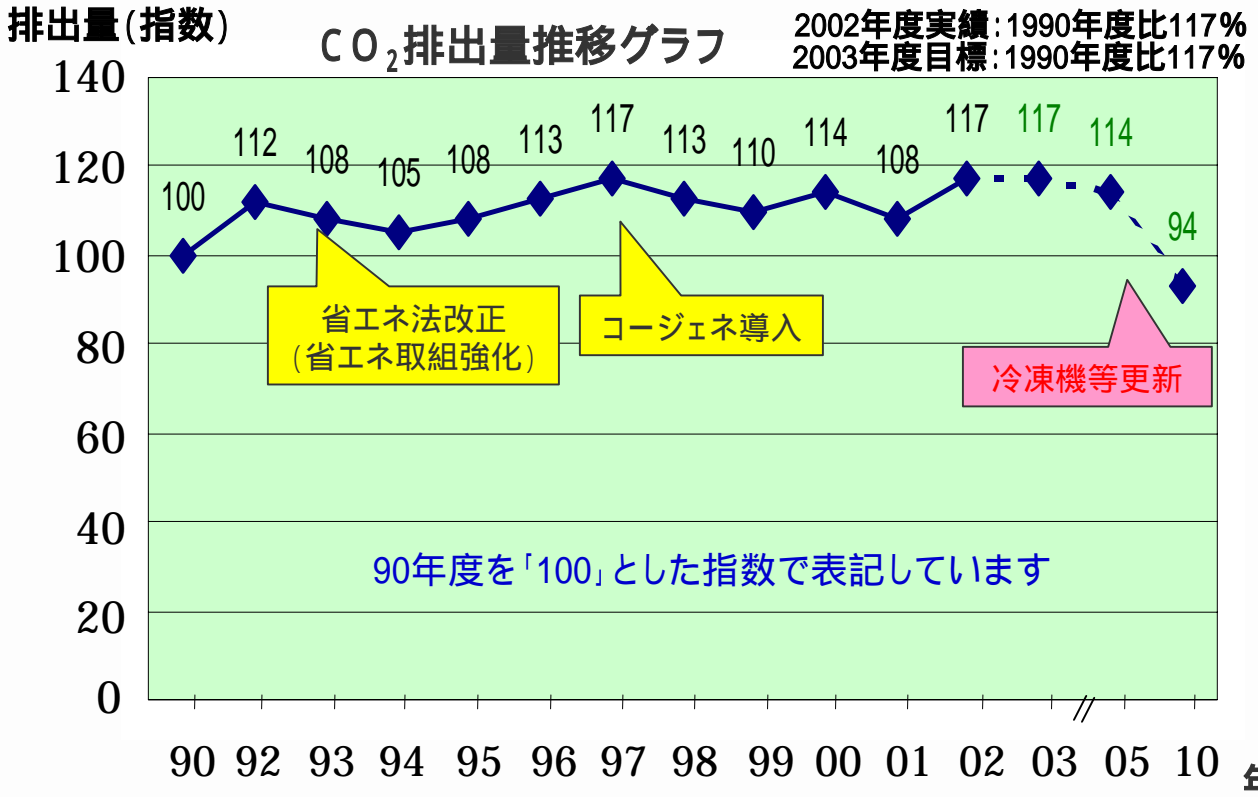
省エネルギーへの取り組み (地球温暖化防止への貢献)

- ・ 2002年度は、事業ラインと一体になったプロセスの改善などにより省エネ施策を実施したが、目標未達に終わりました。
- ・ 2003年度以降の取り組みとしては、長期省エネ目標の達成シナリオに基づく省エネ設備（冷凍機等）への切替等を実施します。

当社の地球温暖化防止[CO₂削減]長期・中期目標

長期： 原単位75%、絶対値94%（'10年度 / 90年度対比）
(国際的取決め準拠)

中期： 原単位97%、絶対値103%（'05年度 / 90年度対比）



環境パフォーマンス 2

- ・環境経営活動の実践として環境負荷低減のために廃棄物総発生量削減と資源効率を高める活動を展開しています。
- ・源流での廃棄物発生源対策を基本に3R施策を効果的に活用しています。

廃棄物削減への取り組み

**産業廃棄物ゼロエミッション（100%再資源化）は
2000年4月に達成、現在継続中。**

2002年度の取組み内容（抜粋）

- ・汚泥からの金回収による再利用
- ・スクラバー廃液の濃度安定化による再利用
- ・スクラバー循環液の交換頻度適正化による廃液削減
- ・排水処理施設薬注量フィードバックシステム導入による汚泥削減

廃棄物再資源化活動の事例発表

2002年11月に開催されましたびわ湖環境ビジネスメッセ2002の協賛セミナー（日独ゼロエミッションセミナー）で、当社の再資源化活動について事例発表をいたしました。



環境パフォーマンス 3

事務用品のグリーン購入は2000年8月に100%達成し、継続しています。

現在、適用範囲を生産部材に拡大し、グリーン調達率100%に向けて精力的に取り組んでいます。

グリーン購入の生産部材への適用拡大

2002年度の取組み内容

- ・ 半導体生産部材取引先（16社）へのグリーン調達調査
： 02/9月～11月
- ・ 電子部品生産部材取引先（10社）へのグリーン調達調査
： 03/2月～3月

【中期目標】

生産部材グリーン調達率：100%（2003年度末）

間接材料その他グリーン調達率：100%（2005年度末）

年度	2002	2003	2004	2005
生産部材のグリーン調達	調査第1ステップ	調査第2ステップ	フォローアップ 代替化推進	100%
間接材料・その他のグリーン調達		実態把握・調査		100%
			代替化推進、フォローアップ	

環境パフォーマンス 4

環境管理・安全衛生レベルの向上のために関連会社等や取引先と定期的に情報交換しています。

- ・ 関連会社等及び協力会社と環境安全に係わる協議会及び現地情報交換会などを定期的に開催し、相互の環境・安全レベル向上に努力しています。
- ・ 資材供給者等の取引先に対してエコアクションプラン概要版等を配付することで、当社の環境管理活動の取り組みを理解していただいています。

関連会社等への支援活動



関連会社等の方々に当社の環境管理・安全衛生に係わる活動内容を展開する機会として環境安全協議会を開催しています。

(開催日 2002年6月)



関連会社等の方々に環境・安全に関する活動状況の確認を目的にアンケート調査の実施や、内部監査員として参画し活動レベルの向上に努めています。

(開催日 2003年3月)

環境パフォーマンス 5

環境リスクマネジメントの強化のため以下の取り組みを進めています。

- ・ 2002年度は、環境負荷の高い場所において環境異常時を想定した対応テストを計画通り実施しました。
- ・ 環境異常時を想定した対応テストでは、緊急予備槽や土のうの有効性についても確認すると共に反省会を実施し問題点を抽出し、解決することでレベルアップを図っています。

環境リスク対策事例

環境異常時想定処置対応テスト実施



タンクローリーで重油を受入時に重油が漏洩したという想定で対応テストを実施しました。土のう等の非常機材の効果についても同時に確認しました。

(実施日 2002年5月)



火災を想定したガス貯蔵施設の温度上昇防止のため、水素タンクへの散水訓練により有効性を確認しました。

(実施日 2003年3月)

環境パフォーマンス 6

当社の廃棄物が適正に処理されるよう常に確認しています。

- ・ 当社の廃棄物を収集運搬業者との情報交換の機会として定期的に安全輸送協議会を開催しています。 (1回/年)
- ・ 当社から発生した廃棄物が適正に処理されているかどうかを把握するために廃棄物処理委託先の現地確認を実施しています。 (1回/年)

環境リスク対策事例

廃棄物排出責任への的確な対応



当社の廃棄物を安全に運んでもらうために廃棄物収集運搬業者を集めて安全輸送協議会を開催しました。

(開催日 2002年6月)



廃棄物の中間処理・最終処分業者を年1回の頻度で現地確認を実施しています。
2002年度は15社の確認を実施しました。

(開催日 2003年3月)

環境パフォーマンス 7

環境リスクを事前に回避するために当社に乗り入れる産業廃棄物運搬車輻に対し社内車検を実施しています。

- ・ 乗り入れの運搬車輻には、業者による自主点検を義務付けています。更に管理強化の目的で、3年間で対象車輻約30台に対する社内車検を実施しています。2000年度から開始し、2003年度は残り10台を対象に社内車検を実施しました。4年目からは、更新車検を予定しています。
- ・ 社内車検に合格した車輻を保有する産業廃棄物収集運搬業者に対し、「社内車検合格証」を交付しました。

環境リスク対策事例

産廃運搬車輻の社内車検制度

発行日 1. 2000. 11. 6 2. 2003. 4. 28 3. 4. 5. 6.	産業廃棄物収集運搬車輻 社内車検制度に関する要領	KAK-119																													
		環境工務部(環境管理)																													
		承認	査閲	作成																											
		明敏	-	西口																											
<p>1. 目的 廃棄物運搬時において、油漏れ、異臭更には事故が報道されている中当社においては、それらの車輻不具合における事故を未然に防止するため独自の車検制度を導入する。</p> <p>2. 対象車輻</p> <p>1) 産業廃棄物収集運搬車輻</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>収集運搬車輻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃 酸</td> <td>タンクローリー車</td> </tr> <tr> <td>廃アルカリ</td> <td>タンクローリー車</td> </tr> <tr> <td>廃 油</td> <td>タンクローリー車、箱車</td> </tr> <tr> <td>汚 泥</td> <td>汚泥積載用ダンプ車</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により委託契約を締結している収集運搬業者で当社に通常入場している車輻。</p> <p>3. 社内車検制度対象廃棄物及び業者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工場</th> <th>種 類</th> <th>業者名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">大津工場</td> <td rowspan="3">汚泥</td> <td>ダイセキ</td> </tr> <tr> <td>松光運輸</td> </tr> <tr> <td>高和</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">廃ブラ</td> <td>甲陽興産</td> </tr> <tr> <td>三輪運輸</td> </tr> <tr> <td>岩谷化学工業</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">彦根工場</td> <td rowspan="3">汚泥</td> <td>岩谷化学工業</td> </tr> <tr> <td>協和化工</td> </tr> <tr> <td>協和化工</td> </tr> </tbody> </table>					種 類	収集運搬車輻	廃 酸	タンクローリー車	廃アルカリ	タンクローリー車	廃 油	タンクローリー車、箱車	汚 泥	汚泥積載用ダンプ車	工場	種 類	業者名	大津工場	汚泥	ダイセキ	松光運輸	高和	廃ブラ	甲陽興産	三輪運輸	岩谷化学工業	彦根工場	汚泥	岩谷化学工業	協和化工	協和化工
種 類	収集運搬車輻																														
廃 酸	タンクローリー車																														
廃アルカリ	タンクローリー車																														
廃 油	タンクローリー車、箱車																														
汚 泥	汚泥積載用ダンプ車																														
工場	種 類	業者名																													
大津工場	汚泥	ダイセキ																													
		松光運輸																													
		高和																													
	廃ブラ	甲陽興産																													
		三輪運輸																													
		岩谷化学工業																													
彦根工場	汚泥	岩谷化学工業																													
		協和化工																													
		協和化工																													

合格

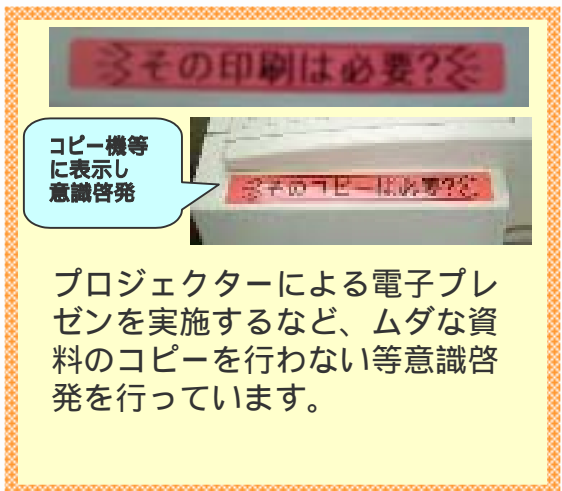
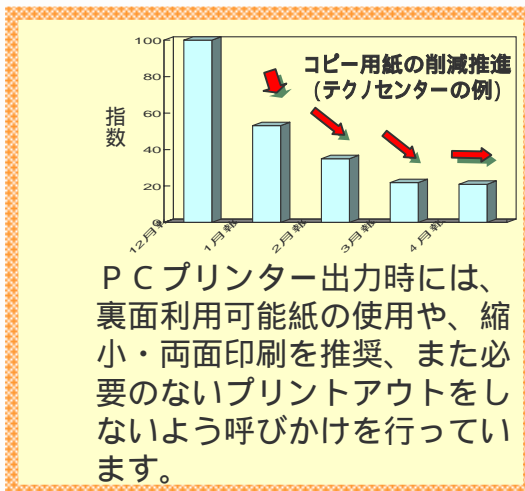
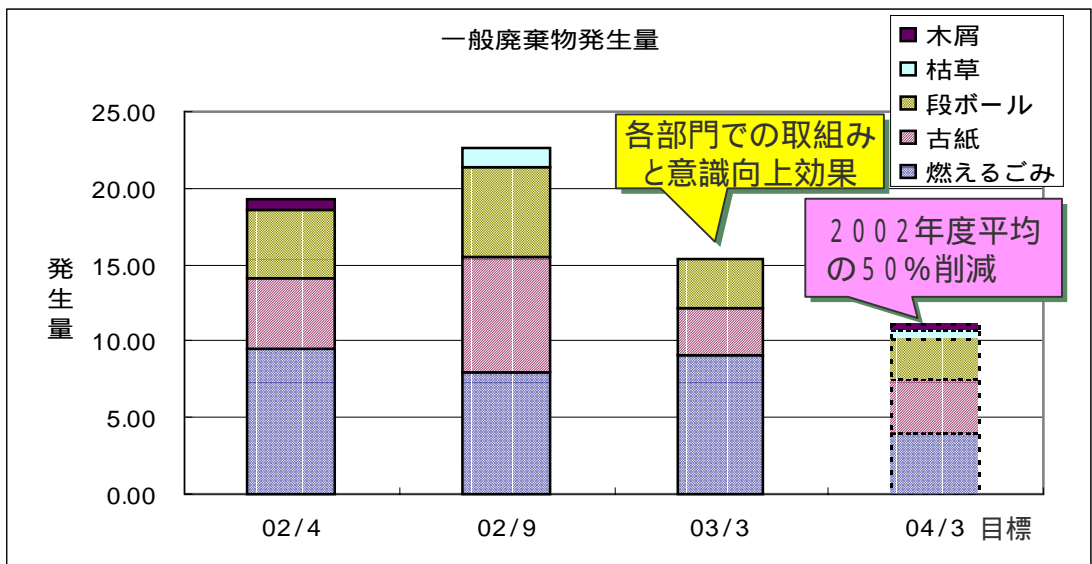


環境パフォーマンス 8

- ・一般従業員が係わる一般廃棄物の発生場所には分別廃棄用の回収ボックスを用意し、発生元で分別を徹底しています。
- ・オフィスにおける省エネ施策として不用時の消灯及びパソコン電源OFF等の活動を徹底しています。

オフィスにおける環境管理活動

全員参加のきめ細かな環境管理活動の展開



環境パフォーマンス 9

自主的な環境管理活動レベル向上のために2001年度は、全部門を対象に内部環境監査を実施しました。

- ・環境負荷の大きな部門に対しては、インタビューとポイントチェックを併用したきめ細かな監査を行いました。
- ・環境負荷の小さな部門に対しては、効率的に書類監査を行いました。
- ・2002年度より監査の効率化を図るために電子オーディトを導入しました。

環境監査



インタビューチェックで環境管理活動状況の書類確認を行い、書類に記載されている内容の事実関係を担当者に直接ヒアリングすることで、検証しています。

様式4 報告先 環境・工務センター 浦崎センター長 殿	2002年度 NEC関西環境監査結果報告書 (環境・工務センター)	環G監-2002-002 2002年 8月 21日 主任監査員: 都築 康彦 CEAR主任審査員 (登録番号:A1895)
--------------------------------------	---	---

監査日及び 監査者	2002年 8月16日(金) 9:00~12:15
主任監査員: テクノセンター・テクノグループ 監査員: テクノセンター・テクノグループ テクノセンター・テクノグループ NEC福井・事業支援部	都築グループマネージャー 成広チームリーダー 中山エキスパート 中島担当

1	不適合・オプザベーションはなく、環境マネジメントシステムが的確に運用されています。
2	オプザベーションが 5件ありました。
3	マイナーな不適合が 1件ありました。
4	メジャーな不適合が 0件ありました。

総 評

監査終了後被監査責任者に「環境監査結果報告書」を配付します。報告書に記載されている指摘事項に対しては、社内是正システムに基づき確実に改善しています。

環境パフォーマンス 10

- ・ 従業員各自の環境管理レベル向上のために環境管理教育や環境意識向上活動を前向きに展開しています。
- ・ 全員参加の環境管理活動を活性化させていくために環境月間（6月、11月）を設定しています。

教育・意識啓発活動



環境管理に係わる階層別教育を定期的実施することで従業員の環境管理レベルが向上しています。2002年度は、ビデオ等を活用し全従業員に環境管理教育を実施しました。

（開催日 2002年11月）



環境管理に係わるポスター・標語を年1回募集し、優秀作品を社内に掲示することで、環境意識向上につなげています。2002年度は
応募作品 ポスター26件、
標語 2663件から、ポスター4点、
標語8点の優秀作品を選出し掲示しました。



2002年度は、滋賀・京都・大阪で世界水フォーラムが開催された関係で世界水フォーラム、琵琶湖をテーマにし、講師に滋賀県の方を招き地域住民の方々にも参加いただきエコ講演会を開催しました。

（開催日 2002年11月）

地域社会とのかかわり 1

良き企業市民の仲間入りをすべく地域に密着した活動を展開しています。

- ・ 地域環境向上の一環として、環境ボランティア活動等を積極的に実施し、地域社会とのつながりを密にしています。
- ・ 行政、市民、当社従業員が一体となり、特徴的な活動を展開するように努力しています。

2002年度環境ボランティア実施状況



毎年、大津市主催でこのヨシ刈りが実施されており、当社からも39名が参加し、良き企業市民としてさわやかな汗を流しました。
(実施日 2003年1月)



「盛越川フェスティバル」が「ふるさとの盛越川を愛する会」の主催で開催されました。当社もこの会の副会長を担当しており、積極的に協力しました。近隣の幼稚園児によって約500匹の鯉の稚魚が放流されました。

(開催日 2002年7月)



NECグループでは社会貢献活動の一環として「Make a difference day」を設定しており、当社では、琵琶湖博物館のある烏丸半島周辺の清掃を実施しました。当社従業員・その家族及び関連会社等の約450名が参加し、4トンものゴミを回収しました。新聞にも紹介されました
(実施日 2002年11月)

地域社会とのかかわり 2

- ・地域の皆様との定期的な情報交換の機会として、近隣自治会との懇談会を年1回実施しています。
- ・地域の方との共同作業としてプランターの花の植替えや松並木の整備を進めています。

地域との環境コミュニケーション実施状況



地域の方との環境コミュニケーションの一環として晴嵐自治会の役員の皆様と情報交換を行いました。今回は特に新しく法律施行されたP R T R法について情報提供しました。

(開催日 2002年5月)



近隣自治会の方と共同で盛越川沿いのプランターの年2～3回、花の植替え作業を行っています。地元自治会の方約20名及び当社従業員約20名が気持ちのいい汗を流しました。

(開催日 2002年6月)



「ふるさとの盛越川を愛する会」のメンバーの方達と川の清掃活動をする一方で川の中には菖蒲を植栽して花を楽しんでもらっております。

(実施 2002年6月)

地域社会とのかかわり 3

- ・滋賀グリーン購入ネットワークでは行政や各種団体の方々と一緒に滋賀独自の地域活動に参加しています。

また、評価手法研究会を担当し、取り組みレベルを相对比较したり、これから取り組もうとしている団体へのグリーン購入の普及方法を研究しています。

地域の環境団体の中で積極的に活動



滋賀グリーン購入ネットワークの常任幹事を担当しており、普及キャンペーンや各種セミナー・フォーラムなどの開催に協力しました。

(開催日 2002年9月)



グリーン購入評価手法研究会リーダーとしてグリーン購入の普及を目的に研究会を開催し、グリーン購入自己診断システム開発に協力しました。

(活動日 2001年10月～)



グリーン購入評価手法研究会で開発したグリーン購入自己診断システムを滋賀GPNのホームページに掲載し記者発表しました。

(活動日 2003年3月)

地域社会とのかかわり 4

- ・ おおつ環境フォーラムでは運営委員、大津環境マネジメントシステムプロジェクトではサブリーダーを担当しています。
- ・ 生ゴミリサイクルプロジェクトの活動に協力し、当社従業員食堂の生ゴミを社内で肥料化し、近隣農家の野菜作りに利用していただいています。

また、栽培された野菜は当社で場所を提供し、フォーラム主催の青空野菜市で販売され、スタッフとして参画協力しました。

地域の環境団体の中で積極的に活動



おおつ環境フォーラムのO E S（大津環境マネジメントシステム）プロジェクトでマネジメントシステムの普及活動を展開しています。

（開催日 2002年8月）



おおつ環境フォーラムの生ゴミリサイクルプロジェクトに協力して、従業員食堂から発生する生ゴミ・調理カスをコンポスト（生ゴミ処理機）で肥料にして近隣農家で利用していただいています。



当社の生ゴミを肥料として栽培された野菜を販売する大津環境フォーラムの青空野菜市に場所提供、スタッフの協力をしています。

（開催日 2002年11月）

地域社会とのかかわり 5

滋賀県知事とNEC関西有志・晴嵐1丁目自治会とは、公共場所を責任もって定期清掃する淡海エコフオスター制度への登録するための合意書に締結しており、環境ボランティアとして活動しています。

- ・ 毎週水曜日に清掃活動実施
- ・ 湖岸道路、JR石山駅周辺、盛越川、当社工場周辺の美化
- ・ 誰でも、いつでも自由参加

注) 淡海エコフオスター制度：エコ(環境)とフオスター(育成する)を結び付け、環境こだわり県滋賀での公共の場所の美化を推進する制度

淡海エコフオスター制度に登録



毎週水曜日には自主的に有志が集まって湖岸道路、JR石山駅周辺、当社の工場周辺のごみ拾いを実施しています。また工場前の盛越川には菖蒲を植えています。



登録看板

淡海エコフオスター制度に登録し、県道の清掃活動を行っています。

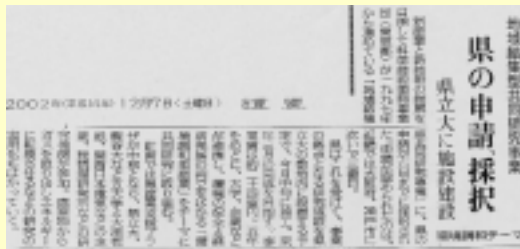
(取付日 2003年2月)

地域社会とのかかわり 6

産・官・学の共同研究である滋賀県地域結集型共同研究事業に参画しています。

・この共同研究は生産ラインから排出される廃棄物の未利用物質に着目して新たな循環サイクルを構築することにより、エンドレスに再利用するシステム及び処理方法を開発する活動を目指している。

・当社の廃棄物を有効活用する方法を大学の先生方と一緒に研究する活動を始めています。



文部省科学技術振興事業団が所管する地域結集型共同研究事業に滋賀県から申請していたテーマ「環境調和型産業システム基盤技術の開発」が採択されました。滋賀県からの要請により、この事業に当社も参画しており、産業廃棄物から有効成分を取り出す研究テーマに取り組んでいます。

(実施日 2002年12月)



関係者との研究活動をスムーズに進めるために当社の排水処理施設や廃棄物発生工程を現地確認して情報を共有化しています。

新しい発想のもとで新たな再資源化方法を研究するための専門家が現地を視察しています。

(実施日 2003年3月)



研究テーマ毎に大学関係者、滋賀県関係者と当社の関係者で毎月地域結集型共同研究事業についての個別打合せを行っています。

全体会議は1回/月の頻度で開催しています。

(開催日 2002年2月)

地域社会とのかかわり 7

工場敷地内にケナフを植えて地球環境保護に協力しています。

- ・ケナフは短期間に旺盛な成長をしますので普通の木より二酸化炭素の吸収が3～8倍と多くCO₂削減に効果があります。
- ・ケナフは夏の午前中に黄色い花を咲かせ従業員の目を楽しませてくれます。また、繊維を利用して紙漉きもできます。



毎年、地球環境保護を考えることを目的に工場敷地内に従業員の手でケナフを植えております。また、取れた種や苗を希望する従業員に渡して家庭や畑でも栽培してもらっています。

(実施日 2002年5月)



夏のケナフは楽しみです。成長が早く毎日どんどん背丈が伸びていきます。黄色い花が咲き始めると毎日たくさん咲きますので目の保養にもなります。

背丈が高い割には根が浅いのでちょっとした風で倒れてしまうので支柱に結んで倒れないように配慮しています。

(実施日 2002年8月)



ケナフの繊維から非木材紙に加工できます。敷地内で収穫したケナフを原料に名刺を作成しています。

また、地球環境保護の意識を高めるために従業員や近隣の方と一緒に紙漉き体験も行っております。

2003年度の主な環境目的・目標

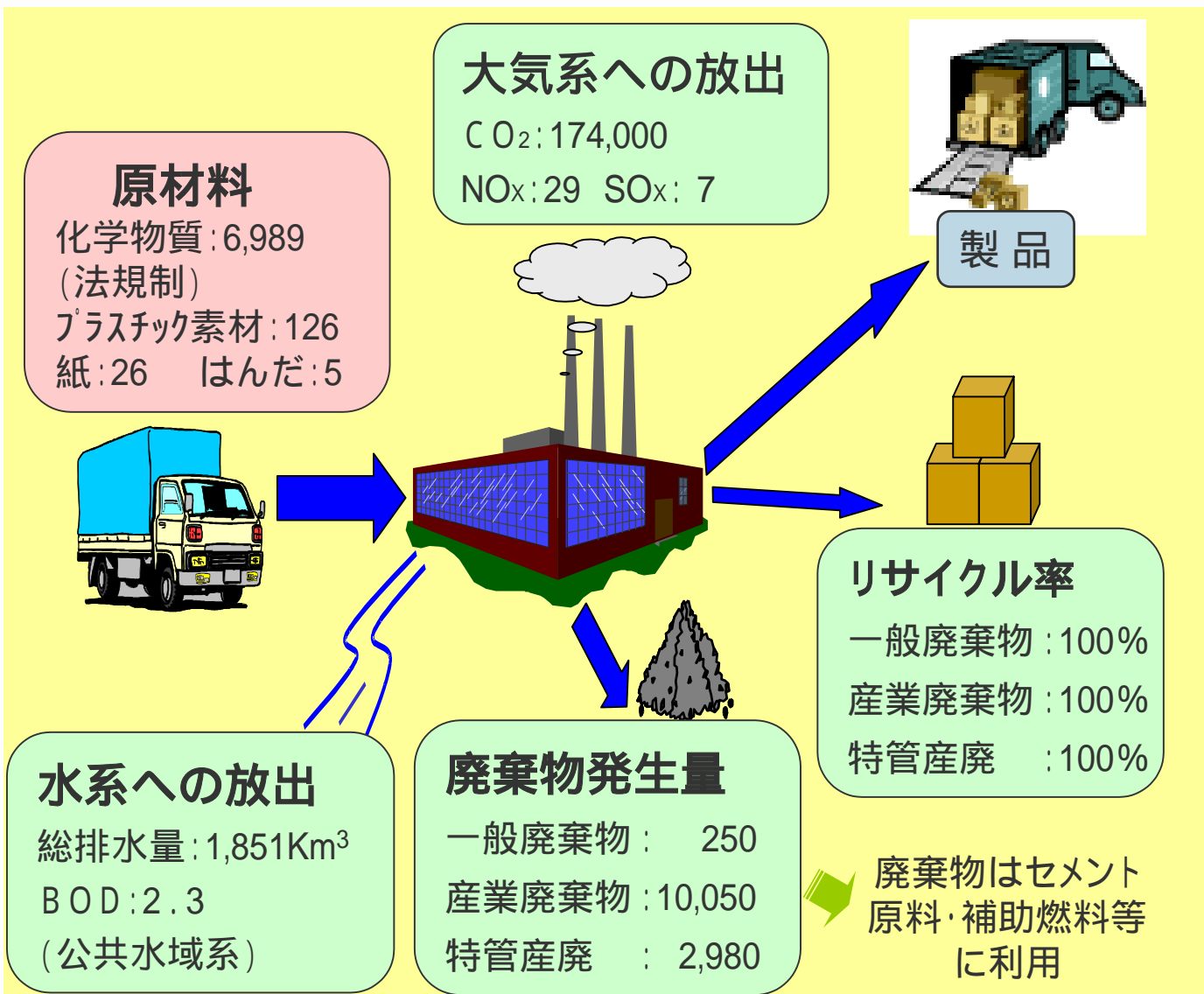
環境目的	2003年度目標
<p>地球温暖化防止</p> <p>エネルギー炭酸ガス排出量原単位を2010年度に<u>1990年度対比で25%削減</u>する。</p>	<p><u>1990年度比で128%増加</u>に抑える。</p>
<p>グリーン調達推進活動</p> <p>生産部材に対するグリーン調達率を<u>2003年度末に100%</u>にする。</p>	<p>生産部材の取引先調査を実施し、取引先の選定およびフォローアップを実施し、<u>100%</u>にする。</p>
<p>資源有効利用</p> <p>化学物質の総使用量を<u>削減</u>する。</p>	<p>2002年度レベルを維持</p>
<p>資源循環</p> <p>産業廃棄物総排出量を<u>削減</u>する。</p>	<p>約12%の生産増が見込まれるなか、削減施策等により、<u>2002年度レベルに維持</u></p>
<p>一般廃棄物総排出量を<u>削減</u>する。</p>	<p><u>2002年度対比で50%削減</u></p>
<p>リスクミニマム</p>	<p>計画的に環境リスク対策を進めることで、「外部に影響する環境異常の発生件数ゼロ」を継続する。</p>

化学物質管理

- ・環境に係わるインプット及びアウトプットデータを確実に管理し、環境負荷低減のために活用しています。
- ・環境負荷が自然の浄化作用内でおさまるように継続的改善を進めていきます。

環境負荷マスバランス

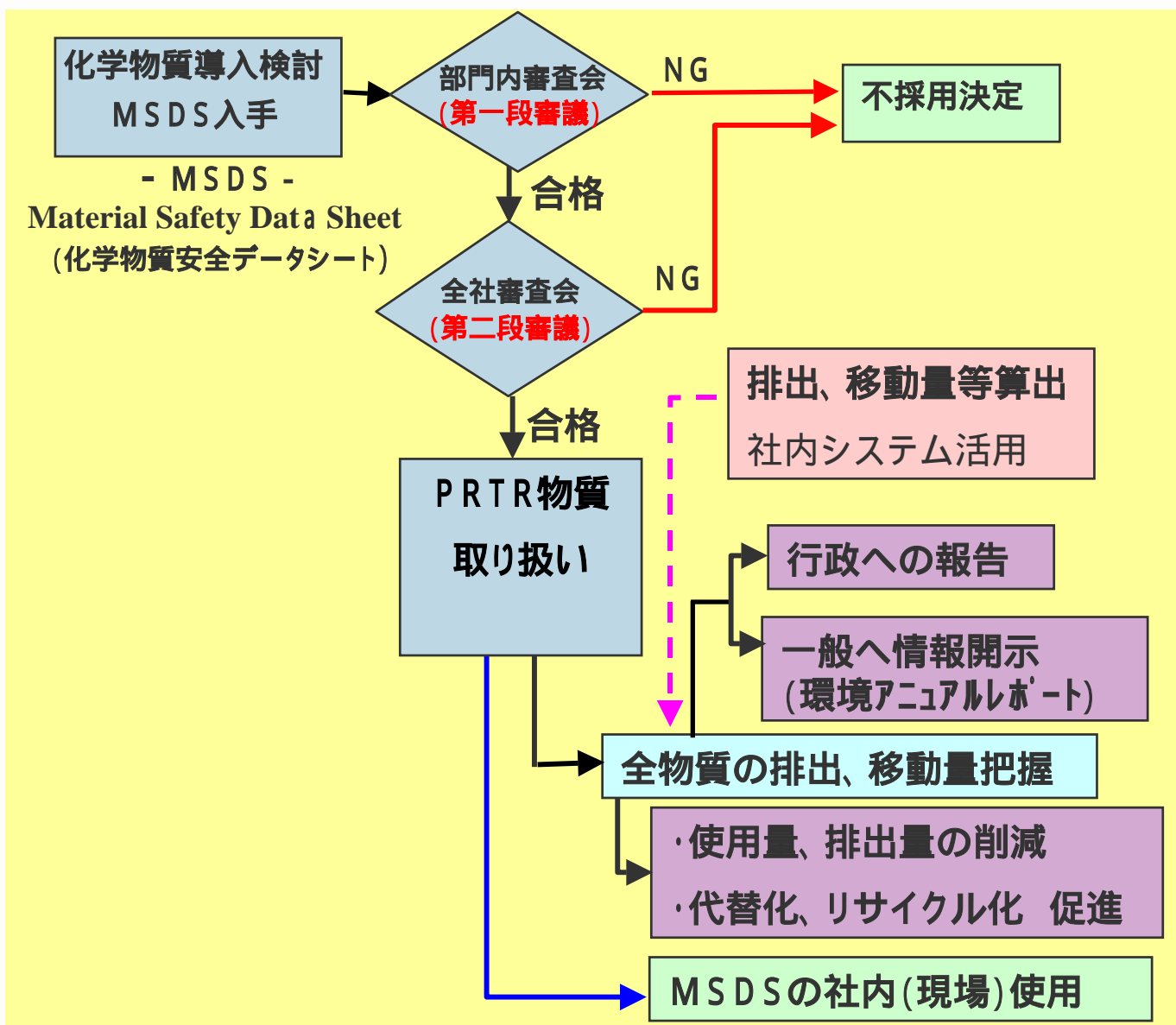
(単位:トン/年)



化学物質管理（P R T R法対応）

- ・ 2001年4月に化学物質の排出・移動量を把握するための法律であるP R T R法が施行されました。
- ・ 当社では、化学物質導入段階から有害性等を2段階で厳重に審議し、有害な物質を使用しないように努めています。
- ・ P R T R法物質は、削減・代替化及びリサイクルを進めています。

化学物質導入フロー



化学物質管理 (P R T R 法対応)

2002年度のP R T R対象物質排出量、移動量

(単位:t)

化学物質名	政令 番号	取り扱い量	消費量 (製品含有)	除去処理量	排出・移動量			リサイクル量
					大気排出量	公共水域 排出量	廃棄物処理 量(注)	
2 - アミノエタノール	16	5.28	0.00	0.00	0.03	0.00	5.25	0.00
アンチモン及びその化合物	25	1.95	0.59	0.00	0.00	0.00	1.36	0.00
エチレングリコール	43	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00
キシレン	63	36.77	0.00	0.00	0.55	0.00	36.22	0.00
銀及びその水溶性化合物	64	0.77	0.35	0.00	0.00	0.00	0.00	0.42
クロム	68	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
クロロベンゼン	93	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00
無機シアン化合物	108	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00
o - ジクロルベンゼン	139	163.36	0.00	0.00	1.25	0.00	160.91	0.00
チオ尿素	181	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00
鉛及びその化合物	230	1.31	0.44	0.00	0.00	0.00	0.07	0.80
ニッケル	231	0.18	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09
砒素及びその無機化合物	252	0.75	0.42	0.00	0.00	0.00	0.20	0.13
フェノール	266	74.25	0.00	0.00	1.11	0.00	73.14	0.00
ふっ化水素及びその水溶塩	283	122.05	0.00	18.18	0.00	2.42	101.45	0.00
ほう素及びその化合物	304	0.16	0.01	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00
ポリ(オキシエチレン) = アルキル エーテル	307	0.14	0.00	0.00	0.00	0.02	0.14	0.00
合 計		407.37	1.90	18.20	2.94	2.44	379.25	1.46
比 率 (%)		100.0	0.5	4.5	0.7	0.6	93.3	0.4

注: 廃棄物処理量には、委託再資源化量によるリサイクル量を含む

管理の事例

	使用量の多い物質(O-ジクロルベンゼン)等	リスクの高い物質(砒素及びその無機化合物)等
用 途	半導体製造のレジスト剥離工程	半導体の単結晶形成工程
有 害 性	・変異原性 ・生態毒性	・経口慢性毒性 ・発がん性 ・生態毒性等
管理方法	該当法令及び社内薬品取り扱い標準類の遵守	
削減努力	工程上の歩留まり改善等による投入(使用)量の削減及び代替化	

滋賀県条例に基づく大気環境負荷低減計画書

滋賀県では、化学物質等による大気汚染など地球規模の環境課題への取り組みを総合的に推進するために「滋賀県大気環境への負荷の低減に関する条例」が平成12年3月に制定され、当社では条例に基づく大気環境負荷低減計画を作成し、届出しています。

標準様式第4号(条例第26条第1項、第2項関係)					
大気環境負荷低減計画書(変更計画書)					
平成14年 4月22日					
滋賀県知事 殿					
提出者 住所(法人にあたっては、主たる事務所の所在地)					
大津市晴嵐二丁目9番1号					
氏名(法人にあたっては、名所および代表					
者の氏名)					
関西日本電気㈱ 大津工場					
大気環境負荷低減計画の低減目標及び達成期限一覧表					
(大津工場)					
大気環境 例 第26条第1 事業場 事業場 計画の基 計画の 計画の 低減目標と 温室効果ガ	種 類	物 質 名	年間排出量または年間使用量	低 減 目 標	達成期限
事業場	温室効果ガス	二酸化炭素	CO2 排出量原単位 40.0t-c/億円('01年度) <総炭素排出量換算量合計> 43,920.6ton-C	CO2 排出量原単位 '01年度対比 5%削減 38.0t-c/億円	2005年 3月
		CF4, C2F6, C3F8, C4F8, CHF3, SF6 NF3	排出量 gwp 換算 (注1) 7.8 Kt / 月 : '01年度	'01年度対比 3%削減 7.6Kt/月	2005年 3月
ばい煙	ばい煙	ばいじん	ばいじん排出量原単位 3.75Kg/億円:'00年度 <年間排出量:4,756kg/年>	'00年度レベルの維持	2005年 3月
		いおう酸化物	SOx排出量原単位 6.23 Kg/億円:'95年度 <年間排出量:7,248kg/年>	'95年度対比 30%削減 4.36 Kg/億円	
		窒素酸化物	NOx排出量原単位 23.9 Kg/億円:'00年度 <年間排出量:30,331kg/年>	'00年度対比 3%削減 23.2 Kg/億円	
有害大気汚染物質	有害大気汚染物質	アンモニア水	使用量原単位 24.6 kg / 億円:'99年度 <年間総使用量:25.57t>	'99年度対比 5%削減 23.4 kg / 億円	2005年 3月
		砒素	使用量原単位 0.14 kg / 億円:'99年度 <年間総使用量:0.147t>	'99年度対比 5%削減 0.13 kg / 億円	
		フェノール	使用量原単位 59.7 kg / 億円:'99年度 <年間総使用量:62.0t>	'99年度対比 5%削減 56.7 kg / 億円	
		シアン化合物	使用量原単位 0.02 kg / 億円:'99年度 <年間総使用量:0.0235t>	'99年度対比 5%削減 0.019 kg / 億円	

土壌・地下水問題への対応状況

- 当社全工場でトリクロロエチレン・テトラクロロエチレン・1,1,1-トリクロロエタンの使用は、1991年12月に全廃しています。
- 1998年10月に当社の敷地内における塩素系有機溶剤による汚染状況を確認後1999年6月より本格的に浄化対策を進めています。

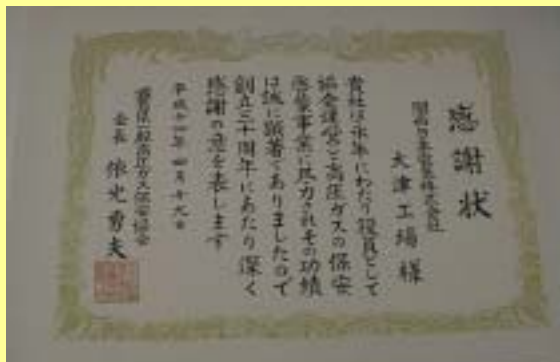
当社敷地内で塩素系有機溶剤による汚染を確認しました。その汚染箇所に対して地下水浄化処理装置を設置し、現在も浄化を続けています。

当社の敷地境界線を越えて、塩素系有機溶剤による汚染が全くないことを確認しています。

- 現在、本社・大津工場では3台の地下水浄化装置を稼働させて、浄化を行っています。
- 定期的な地下水の分析測定により塩素系有機溶剤による汚染状況を監視しており、昨年度と比較して分析測定の結果、改善が進んでいることを確認しています。
- 敷地内において環境基準値をオーバーしている箇所を中心に今後も浄化を進めています。
- 毎年の改善状況等については、担当行政へ報告を行なっています。また、行政を通じて要求のあった一般からの情報公開に対しても的確に対応しています。
- 今後も土壌・地下水汚染に対して前向きに取り組むと共にその取り組み内容を環境報告書等を通して報告していきます。

環境管理に係わる外部表彰

- 1984年 環境保全優良事業場賞受賞
- 1990年 煌き大津賞受賞
- 2000年 リサイクル協議会会長賞受賞
- 2001年 高圧ガス保安経済産業大臣表彰
- 同年 地域環境保全功労者表彰
- 同年 高圧ガス保安功労者
- 2002年 滋賀県一般高圧ガス保安協会感謝状
- 同年 地域環境保全功労者表彰



その他

発行日： 2003年6月

発行部門：関西日本電気株式会社（NEC関西）
環境工務部（環境管理）

連絡先： 〒520-8555

滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

環境工務部（環境管理）

TEL 077-537-7528

FAX 077-537-8198

対象期間：2002年4月～2003年3月

次回発行予定：2004年6月

環境管理活動HPアドレス：

<http://www.neckansai.co.jp/>